

この資料は、横浜市 SDG s 認証制度“Y-SDG s”において評価のあった事例、または好ましい取組事例を記載しています。認証取得の参考にしていただければと思います。

※あくまで、参考ですので、事例としてお示ししている取組がすべてではありません。

分類	評価項目	取組の具体例	事例
全体について～SDG s ウォッシュを防ぐために	<ul style="list-style-type: none"> 経営理念や経営ビジョンに SDG s の概念が入っているのか？ なぜ、会社として SDG s に取り組もうとしているのか？ 	<ul style="list-style-type: none"> SDG s ウォッシュを防ぐために、なぜ SDG s に取り組んでいるのかを確認します。経営理念やビジョン含め、お伝えください。 	
YK-S-1	安全衛生管理、健康経営	<ul style="list-style-type: none"> 職場における安全・衛生管理に取り組んでいる。 作業中の事故等を防ぐための職場の安全対策ルールがある。(ルールは、明文化されている必要がある) 安全衛生に関する規定がある。(規定は、明文化されている必要がある) コロナ対策、感染症対策を実施している。 産業医への相談体制が整っている。 安全衛生優良企業公表制度認定(厚生労働省)を取得している。 「ISO45001」、 「OHSAS18001」など、労働安全衛生に関する認証を取得している。 	<ul style="list-style-type: none"> 【一定の評価】 単に安全に気を付けているだけでなく、組織として、安全衛生対策に対する明文化されたルールがある。 【高評価】 明文化されたルールのほか、安全衛生に関する外部認証を取得している。
	健康経営に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 長時間労働を抑制する取り組みがある(例えば、残業時間の上限を設け、残業時間が一定時間を超えた際には、従業員面談を行うなど)がある。 社員の健康促進のための活動(福利厚生でのジム利用助成など)を実施している。 従業員向けにメンタルヘルスの意識啓発、研修を実施している。 カウンセラーなどへの相談体制を整備している。 「横浜健康経営認証」を取得しているか、かながわ健康企業宣言のうち「健康優良企業」に選定されている。または、健康経営有料法人(ホワイト500)など取得している。 	<ul style="list-style-type: none"> 【一定の評価】 健康経営の意義をよく理解し、残業時間の上限を設け、残業時間が一定時間を超えた際には、従業員面談を行っている。 心や体の悩みを従業員が相談できるように、産業医や外部のカウンセラーにいつでも相談できる体制を整えている。 【高評価】 上記に加え、横浜健康経営認証や健康経営優良法人などを取得している。
YK-S-2	多様な人材の活躍	<ul style="list-style-type: none"> 外国人、障がい者、高齢者等、社内多様な人材の活躍支援に関する取り組みがある。 外国語対応や、障がい者、高齢者向けバリアフリー設備の設置など、職場環境を整備している。(ここで言う職場環境は、「ハード整備」を指す) 法定以上の障がい雇用を行っている LGBTQへの配慮に関する制度や環境を整備している。(ここで言う『制度』は、明文化されている必要がある) 外国人や障がい者、高齢者などの多様な人材のための人材育成や教育制度の充実を図っている。(ここでは、外国人や障がい者、高齢者などのための独自の人材育成や教育制度を指すのであって、単に通常の人材育成や教育制度に、外国人や障がい者、高齢者などを含めて実施しているような制度は該当しない) 	<ul style="list-style-type: none"> 【一定の評価】 外国人労働者のために、技術マニュアルの多言語化を行っている。 車いすでも働きやすいように、机の高さを調整できるようにしている。 高齢者が働きやすいように、施設内のバリアフリーを行っている。 高齢者、外国人、障がい者でも一定のスキルが学べるよう、特別研修制度を用意している。 【高評価】 バリアフリーの実施、筆談道具の設置を行うなど、障がい者が働きやすい職場づくりを行い、現在、法定以上の雇用を実現している。

分類	評価項目	取組の具体例	事例
		<ul style="list-style-type: none"> 取組を実施したことにより、『顕著な成果』が出たり、『顕著な評価』を受けている。（ここで言う『顕著な成果』とは、成果が第三者により認められており、そのエビデンスのあるものをさす。また、『顕著な評価』とは、第三者により何らかの形で受けた評価を言う） 	
	<ul style="list-style-type: none"> 社内のハラスメントを防止するための取り組みを進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> セクハラ、マタハラ、パワハラなどを防止するためのルール・制度構築、教育の実施、相談体制が整備されている。（ルールや制度は、明文化されている必要がある） セクハラ、マタハラ、パワハラなどを防止するための教育の実施、相談体制が整備されている。 内部だけではなく、外部の相談窓口（顧問契約を結んでいる社労士や弁護士などを含む）も設けるなど、相談しやすい体制が整っている。 	<p>【一定の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> セクハラなどのハラスメント研修を年1回実施している。 <p>【高評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ハラスメントに対するルールを制定し、研修を実施しているほか、社内への相談や外部への通報制度なども用意している。
YK-S-3	女性の活躍促進	<ul style="list-style-type: none"> 女性の活躍支援に向けた目標を設定している。 	<p>【一定の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 性別に関係なく、能力ある人を雇用したいために、あえて女性の採用比率を設定し、目標に向け採用活動を実施している <p>【高評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 女性が活躍できる環境を整えるために、2年前より一般事業主行動計画で1名の管理職を誕生させることを目標として設定し、施策を推進してきたが、ようやく今年に入り、5名の管理職のうち、1名が女性管理職に登用された。
YK-S-4	多様な働き方の促進	<ul style="list-style-type: none"> 多様な働き方を促進するための取り組みがある。 	<p>【一定の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 社内外のキャリア支援研修・セミナー参加を促進している。（女性活躍に向けた研修、セミナーに限る） 「えるぼし認定」または「よこはまグッドバランス企業」を取得している、または、「なでしこ銘柄」や「ダイバーシティ企業」に選定されている。
		<ul style="list-style-type: none"> リモートワークやフレックス制を導入し、柔軟な勤務形態（場所・時間）を認めている。 副業・兼業を認めている。 法定を上回る育児休業・介護休業制度を整備、「くるみん認定」などを取得している。 従業員の労働時間が取組前と比べ減少し、ライフワークバランスが充実するなど、従業員の満足度が非常に高い。（定量化できている） 	<p>【一定の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> リモートワークを推奨している。 副業兼業を認めているほか、副業人材の受け入れも行っている。 <p>【高評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> リモートワークの実施、副業兼業を認めているほか、法定を上回る育児休業制度を構築した結果、従業員の労働時間が取組前と比べ10%減少、ライフワークバランスが充実したと答える従業員が8割に上っている。

分類	評価項目	取組の具体例	事例
		<ul style="list-style-type: none"> 「くるみん認定」または「よこはまグッドバランス企業」のどちらか一方は取得している。 「プラチナくるみん認定」を受けている、または「くるみん認定」と「よこはまグッドバランス企業」両方を取得している。 	
YK-S-5	従業員の人材育成・能力強化	<ul style="list-style-type: none"> 従業員に能力開発、教育訓練の機会や人材育成のための仕組みを提供している。 従業員の自己研鑽のための研修機会を提供している、または研修費用を一部/全部負担している。 若手や中途社員向けにメンター制度を整備している。 	<p>【評価に該当する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 若手社員向けにメンター制度を導入し、従業員の育成を行っている。 従業員の資格取得支援のため、受験費用を負担している。
YK-S-6	サプライヤーへの配慮	<ul style="list-style-type: none"> サプライヤー（取引先）の事業活動や環境・社会への取り組みを理解し、サプライチェーン全体で社会的責任を果たすために取り組んでいる。 サプライヤーの環境保全、労働環境の改善、人権侵害の防止（紛争鉱物への対応）など、倫理面での適切な対応を行っている。 サプライヤーの環境・社会への取り組み支援のための指導・助言を行っている。 サプライヤーの環境・社会への取り組み促進のための意見を聞く場を設けている。 これらの取組で、顕著な成果・評価を受けている。（ここで言う『顕著な成果』とは、成果が第三者により認められており、そのエビデンスのあるものをさす。また、『顕著な評価』とは、第三者により何らかの形で受けた評価を言う） 	<p>【一定の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 人権・労働問題・地球環境等への取り組みの方針となる「持続可能なサプライチェーン行動ガイドライン」を制定し、会社の基本的な考え方をサプライヤーの皆様と共有している。 協力会社との間で安全大会などを実施し、そこで、環境保全や労働環境の改善、人権侵害などについても議論している。 <p>【高評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 商品に使用する原料・部品を供給頂いている全てのサプライヤーに対して、当社で定めた遵守項目について確認し、全てのサプライヤーで基準を達成頂いた。
YK-S-7	顧客に対する配慮	<ul style="list-style-type: none"> 顧客からの要望を聞き入れ・改善するための体制を整備している。 	<p>【評価に該当する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 顧客対応窓口を設置し、顧客からの声を、サービス改善に生かす仕組みを作っている。 顧客からの評価表が送られてくるが、その評価表を確認し、どのように改善すべきか、改善委員会を作って、対応を図っている。
		<ul style="list-style-type: none"> 品質管理に関する取り組みを行っている。 	<p>【一定の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> かつてISO9001を取得していたが、現在は取得していない。しかしながら、ISO9001に準じた品質マネジメント体制を構築している。 <p>【高評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ISO9001を取得している。
YK-S-8	製品・サービスを通じた社会課題の解決	<ul style="list-style-type: none"> 製品・サービスの提供を通じて社会課題の解決に貢献している。 高齢者、障がい者、外国人、その他社会的弱者が使いやすいよう配慮した製品・サービスを提供している。福祉・介護、育児、貧困・差別など社会課題の解決を目的とした製品・サービスを提供している。または、フェアトレード商品を取り扱うなど、国際貢献につながる製品・サービスを提供している。 これらの取組で、顕著な成果・評価を受けている。（ここで言う『顕著な成果』とは、成果が第三者により認められており、そのエビデンスのあるものをさす。また、『顕著な評価』とは、第三者により何らかの形で受けた評価を言う） 	<p>【一定の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢者向けバリアフリー住宅の設計・施工を行っている。 障がい者の方が買い物をしやすいように、店舗に障がい者用のエレベーターを設置している。 <p>【高評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 障がい者を対象に水道メーターを分解できる治具を開発し、障がい雇用に対応した取り組みを実施している。 福祉介護用の靴下（片手履き靴下、転びにくい靴下）を販売しているほか、医科大学と提携して、足が不自由な人向けの靴下を開発している。 障がいの子供と一緒に遊べるおもちゃを開発して表彰ももらっている。

分類	評価項目	取組の具体例	事例	
YK-E-1	環境マネジメント・コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> 環境マネジメント体制を構築している。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続的に環境面の活動を改善するための環境マネジメント体制を構築している。(※どのような体制になっているのかをヒアリングでは確認します) 上記に加え、「ISO14001」、「エコアクション21」、「KES(環境マネジメントスタンダード)」など、環境マネジメントシステムに関する認証(外部)を取得している。 	<p>【評価に該当する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> かつて ISO14001 を取得していたものの、現在は取得していない。ただし、ISO14001 に準じた環境マネジメントシステムを自社独自で構築している。 ISO14001 を取得している。 エコアクション 21 を取得している。
		<ul style="list-style-type: none"> 自社の環境への取り組みを開示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページ、環境報告書、CSR 報告書などで自社の環境分野における取り組みを公開している。 	<p>【評価に該当する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ホームページにおいて、自社の環境活動について報告を行っているほか、関係者には、環境通信を配布している。
YK-E-2	気候変動(脱炭素)への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 脱炭素に向けた取組を進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> LED証明(自施設に100%)を導入している。 省エネ型設備への更新や燃料転換などを実施している。 省エネ運動・節電活動を実施し、省エネ、節電効果を見える化している。 低公害車(ハイブリッド車は含まない)・EV・燃料電池車等を導入している。 カーボンオフセットを行っている。 これらの取組で、顕著な成果・評価を受けている。(ここで言う『顕著な成果』とは、成果が第三者により認められており、そのエビデンスのあるものさす。また、『顕著な評価』とは、第三者により何らかの形で受けた評価を言う) ※再生可能エネルギーに関する取組はYK-E-2 	<p>【一定の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境に配慮し、社用車の一部を電気自動車に置き換えている。(社用車 10 台中 5 台を電気自動車に置き換え) 自社でどうしても脱炭素の取組がしづらいものについては、カーボンオフセットの取組(Jクレジット制度を利用)を行っている。 製造設備を省エネ型の設備に更新した。 <p>【高評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事務所の空調は、オンデマンドの空調設備を導入し、節電、省エネへの取組を加速させている。また、社用車の一部を電気自動車に置き換え(5 台中 3 台)、どうしても自社では脱炭素に貢献できない製造設備から出る二酸化炭素については、Jクレジット制度によるカーボンオフセットの実施を行っている。これにより、取組み開始前と比べ CO2 を 20%削減、電気使用量も 20%削減を達成している。
		<ul style="list-style-type: none"> 脱炭素に向けた再生可能エネルギーの利用を進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 太陽光発電、風力発電、バイオマス発電等を導入(自家消費)している。 電力契約にあたっては、非化石証書等の環境価値を付加し、再生可能エネルギー(実質再エネ含む)の割合が30%以上となる電気を選択している。 電力契約または、自社で利用している電力について、環境価値を組み合わせた再生可能エネルギー電気を100%使用、または、自家消費率100%、もしくは、両方合わせて100%導入をしている。 	<p>【一定の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自社の屋上に太陽光パネルを設置し、一部売電、残りを自家消費しており、会社全体の電力の30%を太陽光パネルによる電力で賄っている。 <p>【高評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 横浜市が推進する再エネの考え方を理解し、再生可能エネルギーのメニューを有する小売電気事業者と契約することにした。事務所や工場を含めすべての事業所で、環境価値を付加した再生可能エネルギー100% (実質再エネ含む)の電気を使用している。 横浜市が推進する再エネの考え方を理解し、自社の太陽光パネルから生み出された電力と、再生可能エネルギーのメニューを有する電力小売事業者から供給される電力で、事務所、工場を含め、すべての電気を100%再生可能エネルギーで賄っている。
YK-E-3	水の効率的な利用・管理	<ul style="list-style-type: none"> 水の効率的な利用・管理を行っている 	<ul style="list-style-type: none"> 雨水・中水の再利用や節水を促進している。そのための具体的な取組を実施している。または、下水道の水を再利用した再生水を利用した取組を実施している。 事業所からの排水・汚水による水質汚濁防止に向け、法定を上回る取り組みがある。(水質汚濁防止に向けて事業所が課せられている取組以上の取組を実施している。) 	<p>【一定の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 工事現場におけるトイレをバイオトイレに変更し、節水に努めている。 雨水タンクを設置し、グリーンカーテンへの散水に利用している。 <p>【高評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 雨水タンクを設置し、データセンターの冷却に活用するなどした節水対策を実施し、取組前と比べ、30%水の使用量が減少した。

分類	評価項目	取組の具体例	事例
		<ul style="list-style-type: none"> これらの取組で、顕著な成果・評価を受けている。（ここで言う『顕著な成果』とは、成果が第三者により認められており、そのエビデンスのあるものさす。また、『顕著な評価』とは、第三者により何らかの形で受けた評価を言う） 	
YK-E-4	廃棄物・有害化学物質の管理・3Rの推進	<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物・有害化学物質を適切に管理している。 リデュース、リユース、リサイクルについて具体的な取組みを実施している。（ごみの分別は該当しない） 有害化学物質を把握し、使用量の削減及び適切な使用に努めている。 ISO14001に沿って適切な廃棄物処理対策を実施している。 これらの取組で、顕著な成果・評価を受けている。（ここで言う『顕著な成果』とは、成果が第三者により認められており、そのエビデンスのあるものさす。また、『顕著な評価』とは、第三者により何らかの形で受けた評価を言う） 	<ul style="list-style-type: none"> 【一定の評価】 ISO14001の流れに沿って、適切に有害化学物質の管理を行っている。 建築現場で出る廃棄物の量の見える化を行っているほか、発注段階での廃棄物の数値化、設計段階で廃棄物が出ないような設計を行っている。 【高評価】 食品ゴミをベースにメタン発酵でバイオガスを生成するため、関連事業者と連携して、食品ごみを回収、提供しているほか、ごみの飼料・肥料化を進めている。これにより廃棄するごみの量が取り組み開始前に比べ40%減少した。
YK-E-5	天然資源・生物多様性への配慮	<ul style="list-style-type: none"> 天然資源や生物多様性へ配慮している。 天然資源の持続的利用に配慮した調達を行っている。または、違法伐採などが無い認証ラベルの付いた木材・木材製品を調達している。 生物の生息地・希少種の保全・在来種に配慮した事業活動を行っている。または、植林、森林の適切な維持・管理などを行っている。 自然資本・生物多様性への配慮に関する開示を行っている。 海洋プラスチック汚染の防止に関する活動を行っている。または、海洋護岸保護に関する活動を行っている。 横浜市水のふるさと道志の森基金に寄付を行っている。 天然植物資源の枯渇問題の顕在化にともない、原材料調達ガイドラインなどを制定している。 これらの取組で、顕著な成果・評価を受けている。（ここで言う『顕著な成果』とは、成果が第三者により認められており、そのエビデンスのあるものさす。また、『顕著な評価』とは、第三者により何らかの形で受けた評価を言う） 	<ul style="list-style-type: none"> 【一定の評価】 FSC認証の木材を調達している。 横浜市水のふるさと道志の森基金に寄付を行っている。 【高評価】 自社独自で森林の状況を把握し、写真付きの地図に落とし込む作業を実施。さらに各所に情報発信を行う取組を推進。その取り組みが、国の表彰を受ける大きな要素となった。 天然植物資源の枯渇問題の顕在化にともない、原材料調達ガイドラインなどを制定し、すべての調達がガイドラインに適合したものとなっている。
YK-E-6	製品・サービスを通じた環境問題の解決	<ul style="list-style-type: none"> 製品・サービスの提供を通じて環境問題の改善に貢献している。 省エネルギー、再生可能エネルギー促進、廃棄物削減、リサイクル、生物多様性保全、海洋プラスチック汚染防止など、大気、水質、土壌の汚染防止や浄化につながる技術・製品を提供している。 これらの取組で、顕著な成果・評価を受けている。（ここで言う『顕著な成果』とは、成果が第三者により認められており、そのエビデンスのあるものさす。また、『顕著な評価』とは、第三者により何らかの形で受けた評価を言う） 	<ul style="list-style-type: none"> 【一定の評価】 太陽光パネルを販売している。 廃棄物事業者として、リサイクルに貢献している。 【高評価】 環境にやさしい工事工法を他の事業者とともに開発し、インフラメンテナンス賞を受賞した。 水道直結ウォーターサーバーのレンタル事業を通じ、使い捨てプラスチックボトル削減をステークホルダーに呼び掛けており、協定を締結している町では町庁舎から排出される使い捨てプラスチックボトルが約94%削減された。

分類	評価項目	取組の具体例	事例	
YK-G-1	公正な経済取引	<ul style="list-style-type: none"> 公正な経済取引を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 汚職・贈収賄を禁止する方針を掲げ、社員に教育している。(明文化されている必要がある。) 不正競争行為に関与しない方針を掲げ、社員に教育している。(明文化されている必要がある。) 上記の取組に加え、知的財産を保護するよう、適切な取り組みを進めている。(知的財産を管理する専門部署があったり、知的財産を保護するための社内ルールや制度が設けられているなど) 	<p>【一定の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 不正行為などが行われないよう自社独自の行動規範を作成、掲示するとともに、それを踏まえた社内研修を年に数回実施している。 <p>【高評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「贈収賄・汚職防止に関する法令等遵守方針」を公表、経営陣による監督のもと贈収賄・汚職防止プログラムに取り組んでいるほか、「コンプライアンスマニュアル」において知的財産権を尊重する方針を掲げるとともに、知財管理の専門部署を設置、知的財産権保護の社内ルール整備もを行っている。
YK-G-2	情報セキュリティ	<ul style="list-style-type: none"> 情報セキュリティ対策を行っている 	<ul style="list-style-type: none"> 情報システムへのセキュリティ対策を施している。(単なるセキュリティソフトの導入を除く) 従業員への情報セキュリティに関する研修を行っている。 対策を行うための部署、担当を配置している。 個人情報を適切に管理し、「プライバシーマーク」など関連認証を取得している。 	<p>【一定の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報セキュリティの部署を設置し、従業員へセキュリティ研修を実施、専門業者に自社独自のセキュリティシステムの構築を委託し、システムの運用を行っている。 個人情報などは特に扱わず、書類の電子化などは進んでいないが、重要な書類はすべて、鍵のかかるシェルピングへ保管、鍵は役員のみが持ち、書類の出し入れはだれがいつ行ったのか、開閉の都度チェックリストに記入している。 <p>【高評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 個人情報を扱うことから、情報セキュリティ対策には気を使っており、セキュリティ規定を設け、教育、部署の設置などのほか、プライバシーマークを取得している。
YK-G-3	企業統治体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> 企業統治体制を構築している。 	<ul style="list-style-type: none"> 法令遵守の考え方が社内に十分浸透するよう、役職員に研修している。(例：コンプライアンス研修など) 法令遵守のためのルールがある。(明文化されている必要がある。) 経営状況の情報開示のポリシーを作成などを行っている。 法令遵守が確実に行われるよう、体制・仕組み・ルールが整備されている。(外部監査体制、内部監査体制の両方が整っている。) 	<p>【一定の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 法令順守の考え方が社内に浸透するよう、コンプライアンス研修を年に数回実施している。 <p>【高評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 中小企業ではあるが、コンプライアンス遵守のため、社外取締役の設置など外部監査を強化するとともに、社内に内部監査の専門部署を設置している。また、内部告発制度の導入や経営状況の情報開示のポリシーを作成し、従業員への経営状況の情報開示についても行っている。
YK-G-4	企業の社会的責任	<ul style="list-style-type: none"> 事業によって社会・環境に及ぼす影響に対し、責任を持って対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業がもたらすネガティブな影響を軽減するための具体的な取り組みを実施している(例：住民説明会などの実施、事業地域への社会貢献活動)。 非営利団体等への寄付活動を実施している。 被災地の復興支援活動を実施している。 これらの取組で、顕著な成果・評価を受けている。(ここで言う『顕著な成果』とは、成果が第三者により認められており、そのエビデンスのあるものをさす。また、『顕著な評価』とは、第三者により何らかの形で受けた評価を言う) 横浜型地域貢献企業で10年表彰、プレミアム表彰を受けている。 	<p>【一定の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 工事の際、騒音への配慮から、低騒音機器を積極的に導入している。 被災地への復興支援活動を実施している。 <p>【高評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 建設業をリードする企業として、SDGsの達成に率先して取り組むべきと考えているため、工事の際は必ず住民一軒一軒まわり、独自に作成したチラシで、工事実施の説明を行っているほか、会社独自でSDGs基金を設立し、関係各所からの寄付を募り、SDGsの取組を行う非営利団体への寄付を行っている。

分類	評価項目	取組の具体例	事例	
YK-G-5	事業継続と事業継承	<ul style="list-style-type: none"> 事業継続や事業継承に関する取り組みが進められている。 	<ul style="list-style-type: none"> 防災・減災対策としての設備の強化等を物理的な対策や訓練等を実施している。 事業承継に関する検討が行われている。 事故や災害などの発生に伴う事業中断を想定したBCP計画を策定している。 中小企業等経営強化法に基づく事業継続力強化計画の認定を受けている。 	<p>【一定の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> もしもに備え、BCP 計画を策定している。 <p>【高評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 持続可能な経営に向け、災害時でも経営を継続できるよう、BCP計画を策定している。また、次世代の経営者育成に向け、独自の育成プログラムを構築するとともに、金融機関やコンサルタントなどと事業承継に向けた検討を開始している。
YK-L-1	横浜における雇用促進	<ul style="list-style-type: none"> 従業員の1/2以上が横浜市民である(非正規・パートを含む) 	<ul style="list-style-type: none"> 従業員の1/2以上が横浜市民である(非正規・パートを含む)(大企業の場合、横浜の拠点の従業員の1/2以上が横浜市民であれば該当) 	—
YK-L-2	横浜市内の地域コミュニティへの配慮	<ul style="list-style-type: none"> 横浜市と連携し、地域課題解決に向けた取り組みを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 横浜市と連携協定を締結している。 業界団体を通じて横浜市と連携協定を締結している。 連携協定に基づき、地域課題解決に向けた取り組みを積極的に行っている。 ヨコハマSDGsデザインセンターと連携した取り組みを実施している。 	<p>【一定の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 業界団体を通じて、横浜市と防災協定を締結している。 <p>【高評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 横浜市と包括連携協定を締結し、市とともにまちづくり活動を積極的に推進している。
		<ul style="list-style-type: none"> 地域社会とのコミュニケーション機会を設けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民の職場見学、地域学生の職業体験を受け入れている。 近隣の学校への出張授業を実施している。 地域の防災・防犯・清掃活動に参加している 地域在住の外国人のための支援活動(言語対応、生活、雇用面のサポート)をしている。 	<p>【一定の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域のパトロールや清掃活動を行っている。 近隣の小学校で講話を行っている。 <p>【高評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 商店街のごみ拾い活動を実施し、そのごみをエコバックにアップサイクルし、エコバックの利用で商店街のサービスを受けられる仕組みの構築を中心となって行った。
YK-L-3	横浜における文化・芸術活動の促進	<ul style="list-style-type: none"> 横浜地域において、文化・芸術活動に携わっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自らが文化・芸術・スポーツ活動を行っている。 文化・芸術、スポーツ活動を行う個人や組織を支援している。 	<p>【評価に該当する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 従業員のSDGs浸透のため、障がい者が活躍する芸術団体が行う研修(チームビルディング、インクルーシブ教育)を受け、感銘を受けたため、当該団体に寄付することにした。
YK-L-4	製品・サービスを通じた地域問題の解決	<ul style="list-style-type: none"> 地域経済に資する製品・サービスを提供している。 	<ul style="list-style-type: none"> 文化振興、産品販促、観光促進に取り組んでいる。 市内事業者への発注や購入など、地域資源の積極的利用、地産地消、地産外商に取り組んでいる。 	<p>【評価に該当する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 発注は、横浜市内事業者を優先している。金額ベースで9割以上を市内事業者に発注している。 横浜産の野菜を活用し、レストランで野菜を使った料理を提供している。 デザインセンターが実施するSDGs教育研修旅行のコンテンツに参加(横浜市内外の小中高生の社会科見学や修学旅行での講話、工場見学などのコンテンツを用意)